

鯖江市議会・市民創世会

大門よしかずレポート



鯖江市新横江1丁目7-22 TEL/FAX(0778)52-7488 携帯090-6810-2462



大雨で水があふれた東公園北西角(東鯖江3丁目)

(7月5日17時 齋藤氏撮影)

ごあいさつ

先の西日本豪雨は、広範囲に甚大な被害を及ぼしました。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

これまでは豪雨被害が一部の地域に限定されてきました。しかし、今回は西日本全体とも言えるような極めて広範囲に及び、過去に経験した事がない被害を受けてしまいました。

被災した映像を見る度に、平成16年7月の福井豪雨を思い出します。私の実家も床上1m以上の浸水被害に遭い、一階にあったものすべて、そして仏壇さえも廃棄せざるを得ませんでした。その後の泥の始末は本当に大変でした。床下の泥は10日経ってもまるでお汁粉のようでした。酷暑の中、ボランティアに汗を流している人々には心より感謝したものです。

近頃は「数十年に一度の大きな災害が予想されます。避難してください」というアナウンスがテレビから度々聞かれるようになりました。確かに近年は雨の降り方が変わってきました。この原因の一つとして人間が大量に消費するエネルギーによるCO₂増加により引き起こされる地球温暖化と言われています。

地球が温暖化すると大気中に含まれる水蒸気量が増えます。また、この水蒸気さえも温暖化の原因物質と言われています。水蒸気量が増えれば雨もたくさん降ります。今年2月の豪雪も同じ現象だったのでしょうか。しかし、私たちはこれから江戸時代の生活に戻れるでしょう

か?…絶対に無理です。ならば、身近なところから、できることから無駄な資源、余分なエネルギーを使わない。そして、再資源化に積極的に取り組む生活を心掛けるしかありません。

6月議会一般質問より

SDGsの中でのゴミの減量化対策と燃やすゴミの有料化について

市長は国連において、鯖江市における女性活躍の姿を世界に向け発信しました。このことは、SDGs*の理念に沿った市政運営に不退転の覚悟で取り組むとの意思表示ではないかと私は感じました。それであるなら、やはり、環境の面でも他市町から鯖江市は一步先を進んでいる。いろいろなことに積極的に取り組んでいると評価される行動を起こすべきときではないでしょうか。

*SDGs・・・持続可能な社会を実現するために国連が掲げた目標。各分野にわたり 2030年までに国際社会が取り組むべき行動指針。



2018年6月1日ニューヨーク国連本部にて(鯖江市HPより)

◎ゴミの処理コストについて

燃やすゴミを含めた処理費用総額は平成28年度6億9千300万円余。平成29年度7億3千500万円余。市民1人当たり換算すると約1万円の計算

になります。

解説 例えばゴミ1キロ当たりに換算しますと31円になります。45リットルのゴミ袋を約3キロと仮定しますと、1袋当たりほぼ100円ということになります。市民の中には、ゴミと安全はタダという意識をお持ちの方が少なくないのかもしれませんが、しかし、ゴミ処理にかかるコストを正確に知っていただくことが減量化につながる動機づけになると思います。

◎焼却炉の現状と更新計画について

現在の焼却炉は33年目を迎えています。1日16時間体制で120トンの可燃ゴミを処理する能力を有しています。しかし、老朽化により毎年3億円を超える補修工事が必要です。このような中で、一刻も早い施設更新のために、ゴミ焼却施設等整備基本構想および循環型社会形成地域計画の作成にとりかかっています。今後13カ月程度で計画を策定し、環境影響調査、施設の整備事業計画へと順に取り掛かります。

解説 南越清掃組合では、新しい用地に新炉建設費として95億円の予算を見込んでいます。鯖江広域衛生施設組合でもほぼ同規模の施設が必要になります。土地代なしで仮に60億～80億円の建設費としても、国の補助金以外に鯖江市は30億～40億円程度の負担が発生するものと思われます。



老朽化が課題になっている西番町のクリーンセンター

◎なぜ燃やすゴミの減量化が必要なのか

まず第一にゴミ焼却時における二酸化炭素の排出を抑制し、地球温暖化を抑止しなければなりません。また、毎年3千500トンにも及ぶ焼却灰の埋め立て処理可能年度も平成42年度までという見通しです。もちろん現在の焼却炉の長寿命化と、新しい焼却炉建設費のコストダウンにつながります。

子や孫につけを残さない、持続可能な循環型社会構築のためにも、ゴミの減量化は必要です。



最終処分場「夢の杜おた」

◎ごみ問題懇話会の提言とは

鯖江市の1人1日当たりのゴミの排出量が全国平均や県平均を上回っていること、最終処分場「夢の杜おた」の使用可能年度問題、そしてクリーンセンターの老朽化に伴い、新しい整備に向けて検討も始まっているということ。それらを踏まえ、有料化の検討を行った結果、周知啓発を十分に行い、資源化の推進、生ゴミの減量化、堆肥化、事業系ゴミの減量化に取り組む。また、環境教育の推進などを引き続き継続して行うとともに、早急に家庭ゴミを有料化して、市民、事業者、行政が共同でゴミの減量化を目指すべき。という内容の提言です。

◎燃やすゴミの現状について

平成29年度は1万9千680トンです。直近では約250トン増加しています。ちなみに、近隣市町の1日1人当たり、ゴミの排出量は平成28年度で鯖江市が890g、福井市が905g、越前市814g、越前町786gです。

解説 越前町はゴミ袋代に手数料を上乗せする形で有料化(45L袋で25円。鯖江市は約7.5円)しています。有料化がゴミの減量化に効果があると言えます。

◎燃やすゴミの組成調査について

市では、燃やすゴミの現状把握のために年1回、組成調査を実施しています。平成29年度の調査結果は生ゴミが30%、紙類、衣類が約20%、その他プラスチック製容器包装などの資源物が12%、食べ残しや賞味期限切れなどの食品ロスが約10%、紙おむつが約10%、その他の燃やすゴミが約18%となっています。

解説 ゴミの減量化には燃やすゴミから資源物を分別すること。そして生ゴミが30%と一番大きなウェートを占めています。これを減量化することが肝要です。

◎ゴミの減量化に有効な対策とは

家庭系の燃やすゴミに混入している資源物量を組成調査から推測しますと約32%、トン数に直すと4,022トン、1人1日当たり159g減量化が可能です。まず第一は分別の徹底をしていただくということです。また、生ゴミの水切り運動や食べ残しゼロの啓発にも取り組んでいます。

平成17年に環境省が市町村の役割としてゴミ有料化の推進を図るべきとの方針を示しています。生活系燃やすゴミを有料化することにより分別がさらに進み、減量効果が期待でき、有効な対策だと考えています。

生ゴミの減量化に対する取り組み

◎堆肥化に対する取り組みは

市では生ゴミの減量化と環境市民の育成を目的として、平成23年度から、生ゴミの堆肥化の取り組みとしてダンボールコンポストの講習会を実施し、その普及に努めています。毎年300世帯の方に普及啓発をしています。また、豊かな環境づくりを目的に活動し、生ゴミを堆肥化して、家庭菜園でリサイクルをしている市民団体に対し、支援をしています。

また、従来型のプラスチック製コンポストを改良した生ゴミ処理機を試験的に購入し、堆肥化の効果を調査しています。

所感 生ゴミの堆肥化はエコネットさばえが熱心に取り組んでいます。各家庭においても生ゴミの有効活用に取り組んでいただきたいと思います。



エコネットさばえで試験中の地下に埋めるタイプのコンポスト

こんなにも食品ロスが

まだ食べられるのに捨てられている食品の量は日本で632万トンに及ぶそうです。これは世界全体の食糧援助量の2倍にあたり、国民1人当たりになると毎日お茶碗1杯の御飯が食べられずに捨てられている計算になるとのことです。このような無駄はSDGsの精神にも背いています。鯖江市でも食品ロスを低減させるため、さまざまな対策を講じています。

◎食品ロス削減への鯖江市の取り組みは

食品ロス削減の取り組みとして昨年度、宴会や飲食店での食べ残しを減らすために、お店で使用できる紙製のコースターを製作配付し、啓発をお願いしています。また、今年度は、提案型市民役事業の持続可能な循環型社会構築への啓発事業として、繰り返し利用できる素材のコースターと割り箸などを作成し、食品ロスの削減を引き続き啓発していく予定です。

所感 コースターで食品ロス削減を訴求していますが、見慣れてしまうと、単なるデザインとしか認識されされないかもしれません。もう少し積極的な取り組みが必要ではないでしょうか。

◎鯖江市として今後どのように取り組んで行くのか

ダンボールコンポストのさらなる普及啓発に努めていきます。また、家庭や食品から排出さ



ダンボールコンポスト(エコネットさばえ)

れる食品廃棄物などについても水切りを徹底していただく啓発も続けていきます。

また、全国で食べきり運動を推進し、食品ロスを削減することを目的に設立されました「全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会」と積極的に連携をとりながら、啓発を進めていきます。合わせて、3010運動*を、まず担当部、それから市役所全体に、さらに商工会議所などを通じて市内の事業者に対しても啓発を行っていきます。

*3010運動・宴会の乾杯後30分は席を立たずに、最後の10分はまた席に戻って料理を食べるという運動。2011年松本市で始まった運動。

燃やすゴミの有料化について

有料化というのは、ゴミ処理に多額の経費がかかるから、少しでも市民の皆さんにご負担をお願いします。というふうに捉えられがちです。しかし、市民側から見れば、大きな負担を強いられるのではないかと。有料化の前に経費削減すべきところはいくらでもあるのではないかと。との思いが先にきてしまいます。有料化とは、ゴミ処理の経費を賄うためだけでなく、もっと広い観点から鯖江市全体を見ての方向性だと市民の理解を得るべきだと思います。

◎有料化の主たる目的は何か

分別を進めることにより、燃やすゴミを少なくし、排出量が減少するという効果が見込まれます。可燃ゴミの有料化を実施した多くの自治体で可燃ゴミが減るだけでなく、資源物も含めた家庭ゴミ全体の減量効果があらわれるという報告書もあります。市民のゴミに対する意識の向上も期待できます。さらに、燃やすゴミの減量に努力している方とそうでない方の公平性の確保も図られます。(解説参照)

また、排出抑制の促進によりゴミ処理費用削減、焼却設備建設費の削減、最終処分場の延命にもつながります。

リデュース、リユース、リサイクルを徹底して、ゴミの減量化、資源化を推進することは、持続可能な循環型社会構築を目指す上で大変重要な取り組みです。

解説 ゴミ袋が非常に安価だと、分別してもしなくても、量が多くては少なくても、ゴミを出す人のコストはゴミ袋代のみですから、ほとんど変わりません。分別が面倒だから全部燃やすゴミに出してしまえ。という人と、分別と再資源化に熱心に取り組み、燃やすゴミを減らしている人とは負担するコストに差が生じることは社会的に公平性があるとも言えます。



分別されていないゴミ(容器包装プラゴミに混入していました)

◎有料化に対する全国の動向と県内の他市町の動向は

全国と県内の動向ですが、全国の63.6%の自治体で実施をしています。また、県内は、坂井市やあわら市などを含め41.2%の自治体が導入しています。また、敦賀市でも有料化の検討を始めています。

解説 燃えるゴミの有料化は、ゴミ袋に手数料を上乗せする形で実施しています。45L袋であわら市、坂井市では30円、越前町では25円です。鯖江市は袋代のみで7.5円程です。ちなみに環境省は、1リットル当たり1~1.5円(45L袋で45円~67.5円)を推奨しています。

◎鯖江市としてゴミの有料化にどのように対応しようとしているのか

昨年度は10地区の区長さんを中心とした方々にこの提言書のご説明をさせていただきました。今年度はさらにご町内ですとか、各種団体を対象に説明会を開催する予定です。市では市民の皆様と共にゴミ分別の徹底や古紙の資源化などに取り組んできました。持続可能な循環型社会構築のために、さらに実効性のある減量化、再資源化策として燃やすゴミの有料化について、丁寧に説明をしていきます。

解説 越前町を参考に45L袋で30円として試算しますと、約1億円ほどの手数料が入ってきます。ゴミ袋の原価や経費を差し引いても数千万円の手数料収入が見込めます。処理費7億円のうち1割にもならないわけですが、それでもこれをゴミの処理費用に充てるとか、子育てや高齢者福祉の施策に振り向ける。また、基金に積んでゴミ焼却場の建設費や維持管理費に充当することもできます。さらには町内会の補助金を増額するという使い道もあります。鯖江市の将来のためには避けては通れない施策と考えます。

◎実施するならいつ頃か。それまでに市民への周知と理解をどのように進めるのか

実施すると仮定して、現在使用しているゴミ袋の企画やデザイン変更、また条例や予算の議決が必要です。さらに、今の燃やすゴミ袋の在庫がメーカーや店舗から無くなるまでの期間を考えますと、少なくとも2年間は必要と考えます。有料化の実施につきましては、市民の皆様のご理解、ご協力が必要なので、住民説明会などを開催します。また価格や用途などの制度設計についても、議会や関係部局との調整を行いながら進めていきたいと考えています。

所感 実施時期についての明言はありませんでしたが、2年以上は時間をかけたいとの事です。

ゴミの有料化にあたっては子育て家庭や介護高齢者のいる家庭、生活困窮家庭などへの細かい配慮(無料配布など)をする事が肝要です。そして、丁寧に説明をし、市民理解を得ながら、慎重にかつ確実に進められることを希望します。

あとがき

今回の西日本豪雨の後には記録的な猛暑が続いています。お身体大切にお過ごしください。

最近は異常気象が異常では無くなりつつあるのでしょうか。しかし、原因を作っているのは人間です。安全で便利な生活の代償として、自然界からのお返しなのかもしれません。人はもっと謙虚であるべきでしょう。